

本・恩光碑保存会役員の野沢汎氏は其の著書「後裔が見た、水戸藩騒動の事実」のあとがきの中で、「私の父はかねて自分の祖先の歴史と、その経緯について調査・研究を重ねていた。我が先祖は下級武士ながら正統な水戸藩士なのに、解明できないのは何故だろう。それは、わが家が諸生派家族のレッテルを貼られたからだ。明治維新から天狗党は我が世の春を謳歌したが、反対に諸生派は『除族集録』され、子孫は明治22年憲法発布の大赦令が出るまで、世の中に遠慮しながら暮らしていた。諸生派の記録・資料は焼却されたか死蔵され、容易に知り得なかつた。」と記しているが、これは一人、野沢氏のみでなく、本日ご参加されたすべての方々の思いであろうと推測するのである。

毎年、水戸市では黄門祭りが行われる。

慰靈法要の日を迎えて

会長 大森信英

知
恩
第二号

れでいるが、その出し物の中に、「追い鳥狩り」の行列がある。その行列の従者の旗指し物を見ると、総てが天狗派の人々の指し物で、諸生派の指し物は全く見られない。

この「追い鳥狩り」の行われた時代には、まだ、天狗・諸生と云うような派閥は無かつた時代であるので、この行列を企画した関係者はそのようないい事を知っているのであろうか、疑いたくなるのである。いくらお祭りだからと云つても、水戸市民だけではなく、他の地方の方々も見にくるのであるから、もう少し史実に忠実であつても良いであろうと思う。

さきに述べたように、今時大戦を経て、諸生派の子孫はやつと平穏な日々を送ることが出来るようになり、祖先の靈魂を祭れる日を迎える事が出来たのである。

「追鳥狩」とは水戸藩では狩猟のかたちをとつた軍事訓練・演習の意味を兼ねていました。



平成19年 夏・撮影
水戸城 大手橋



水戸城一の丸 三階櫓
古写真
昭和20年 8月2日 空襲にて消失



弘道館 正門



平成19年 夏・撮影
弘道館 正門

水戸藩国事殉難者慰靈法要・

挙行について 恩光碑保存会

一〇〇七年(平成19年)9月22日、秋の彼岸とは言え、暑い日が続いていました。

本日、水戸殉難者恩光碑保存会を設立後、第一回の「水戸藩国事殉難者慰靈法要」を、水戸黄門様「徳川光圀公」ゆかりの祇園寺において、境内に建立された「恩光無辺碑」の碑前に、ご来賓の方々ご参列のもと、子孫関係者一同参列し厳粛に慰靈法要の式典を執り行いました。

この日、ご来賓として、次の方々のご参列を頂きました。

衆議院議員 赤城徳彦様
参議院議員 岡田 広様
茨城プレスセンター株式会社

幕末維新水戸有志を偲ぶ会
事務局長 川上 清様

日立歴史研究会

会長 小浜一雄様
理事 池田貞雄様

お忙しい所をご参列頂き厚く御礼申し上げます。

尚、水戸市長 加藤浩一様より、又、岡田広様より、丁重なる電文のメッセージを頂きましたので、披露させて頂きました。

法要は次のとおり執り行いました。
総合司会 朝比奈泰仁・実行委員
法要式典の部

開式 正午

読経

追悼文朗読

来賓焼香

電文披露

読経

閉式

式典終了後

記念写真撮影 「本堂前に於いて」
次に寺院客殿・大広間に於いて

平成19年9月22日祇園寺にて
法要参列記念

このようにして、念願の諸生派国事殉難者の慰靈法要を執り行うことが出来ました。
改めて殉難諸士のご冥福をお祈り申し上げます。

又、会員各位のご協力、法要実行委員の皆様のご尽力、祇園寺の皆様のご協力により、水戸殉難者恩光碑保存会設立後、第1回の法要を終了する事が出来ました。有難うございました。厚く御礼申しあげます。

法要実行委員会の皆さん



恩光無辺碑前 法要式典



平成19年9月22日・祇園寺の
法要式典において朗読しました
追悼文

本日、ここに、水戸藩国難事件殉難者慰靈法要を挙行するに当たり、第二代水戸藩主・徳川光圀公開基の祇園寺境内に建立された「恩光無辺碑」の前に、ご来賓の皆様ご列席のもと、子孫関係者一同、碑前に会して、殉難者の御靈に謹んで申し上げます。

まず「恩光無辺碑」の碑文を申し上げます。

「明治戊辰 德川宗家の衰廃を悲しみ 慷慨 難に赴く者 水戸藩士数百人を下らず 皇恩洪大 宗家の後に録す 遺靈また以て瞑すべし茲に其の姓名を挙げ 碑背に録す也」

篆額は、室田義文翁の書であり、碑文は朝比奈知泉の撰であります。

幕末維新の激動期に、國の行く末を憂い、國事に奔走しながら、一途に尊皇敬幕に走り、不慮の死を遂げ屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華された事は、誠に殘念の極みであります。党派を別にして、其の主義は異なるも、君に対する忠誠心に於いては少しも異なる所は無いと、室田義文翁のお言葉の通り、私達も信ずるものであります。

平成十九年九月二十二日

参列者を代表して

大森信英



恩光無辺碑



平成19年9月22日 祇園寺
第1部 碑前・法要式典
大森信英会長 追悼文朗読



祇園寺



第2部 設斎・懇親会
来賓挨拶 岡田広様

平成19年9月22日・祇園寺の
法要式典において朗読しました
追悼文

本日、ここに、水戸藩国難事件殉難者慰靈法要を挙行するに当たり、第二代水戸藩主・徳川光圀公開基の祇園寺境内に建立された「恩光無辺碑」の前に、ご来賓の皆様ご列席のもと、子孫関係者一同、碑前に会して、殉難者の御靈に謹んで申し上げます。

まず「恩光無辺碑」の碑文を申し上げます。

「明治戊辰 德川宗家の衰廃を悲しみ 慷慨 難に赴く者 水戸藩士数百人を下らず 皇恩洪大 宗家のもと、子孫関係者一同、碑前に会して、殉難者の御靈に謹んで申し上げます。」

篆額は、室田義文翁の書であり、碑文は朝比奈知泉の撰であります。

幕末維新の激動期に、國の行く末を憂い、國事に奔走しながら、一途に尊皇敬幕に走り、不慮の死を遂げ屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華された事は、誠に殘念の極みであります。党派を別にして、其の主義は異なるも、君に対する忠誠心に於いては少しも異なる所は無いと、室田義文翁のお言葉の通り、私達も信ずるものであります。

平成十九年九月二十二日

参列者を代表して

大森信英

元治元年、筑波山事件以来、百四十三年、「恩光無辺碑」建立依頼七十余年、本日、ここに、往事を偲び、改めて、各地に散華した人々に思いを致し、この先祖代々の地・水戸に於いて、子孫一同、碑前に会して、鎮魂慰靈の誠を捧げるものであります。

なお、幕末騒乱に際し、不幸にして散華した人々の偉業に光をあて、顕彰し、この歴史の眞実を風化させることなく、末長く後世に伝える所存であります。」

次の辞世の歌は、この不幸な出来事を象徴しているように思えてなりませんので、特に、申し上げたいと存じます。

君ゆへに すつる命は おしまねど
忠が不忠になるぞ かなしき
事、志と異なると雖も、御靈の安らかならん事をお祈り申し上げます。



平成19年 夏 摄影
恩光無辺碑



平成19年9月22日 祇園寺
法要式典



平成19年夏撮影
祇園寺 本堂

編集後記

素人の作成ですが皆様に少しでも、
ご理解頂けますよう「会報・知恩」
作成に努力して参ります。

水戸殉難者恩光碑保存会

会報 知恩第2号

平成19年10月31日 発行

发行人

大森信英

編集責任者

前沢瑞穂

編集委員

清水光夫

野沢汎

朝比奈光一

川上 有文

日々々々々
編集印刷

綿引周一

事務局

恩光無辺碑建立の大恩人
室田義文翁について

水戸市教育委員会編集の「茨城の
先達」よりの引用文であります。

水戸殉難者恩光碑保存会 会報知恩 2 号 平成 19 年 10 月 31 日発行